
ただの出会いから 1 年弱

クロロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ただの出会いから1年弱

【Nコード】

N3874Q

【作者名】

クロロ

【あらすじ】

俺が初めて付き合った彼女との出会い、そして別れ。

あの時はまだ19歳の夏のお話。

きつと俺は正義感ぶっていたのか、それとも彼女を変えてやれると思ったのか。

些細なお話です。

ノンフィクション。

初めは、朝早くにSNSサイトから届いたメールから始まった。

○○さんよりメールが届いています。

『虐待されています、助けてください』

この時の時刻は朝の五時。

先日は友達と遅くまで飲んで、結局寝る事も無く朝を迎えたばかりだった。

最初は、何かのイタズラだと思いついて無視することにした。

五分後。

○○さんよりメールが届いています。

『お昼に○○駅で待ってます、来るまで待ってますから』

「・・・またかよ」

と、俺が小声で呟いた時、一緒にいた林（仮名）が声を掛けてきた。

「どうした？」

「なんか、変なメール来てんだよ」

俺がそう言つと林は特に考えもせず。

「ほつとけ」

そう、きっぱりと言いつた。

「ああ・・・」

確かに林の言う通り、イタズラの可能性が高いし、どこの誰とも解らない奴と会つのも気が引ける。

ほつとこう、そう思った。

けど、一抹の不安が過ぎつた。

(・・・これが本当だったらどうなるんだろう・・・?)

(俺は助けを求めている手を払って良いのだろうか・・・?)

俺が真剣な面持ちで考え事をして、その考え事を林は解つたのか俺

に言を強めて言った。

「ほっとけて！」

うん、解ってはいたよ。

きつとイタズラだったり、もしくは変な奴かもしれない。
彼は俺以上に、俺を心配してくれていた。

だけど、もしこれが本当のことだったらどうする？

きつと俺は一生後悔するんじゃないのか？

俺が騙されるだけで終わるのなら、それで良いじゃないか。

俺の結論はそこに至ってしまった。

「林、俺はやっぱ行くわ」

「・・・勝手にしろ」

半ば呆れたモノ言いだったが、表情は起こっている訳でもなく、微妙に微笑んでいた。

まあ、呆れていたんだろう。

（後書き）

文才が皆無です、半ば俺が書きたいと思った事を書くだけの自己満足にすぎませんが、興味を持ってくれたらなんと、思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3874q/>

ただの出会いから 1 年弱

2011年1月28日07時38分発行